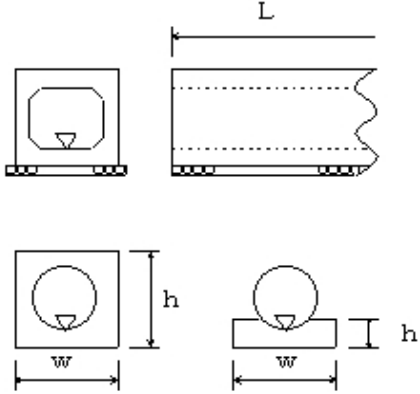
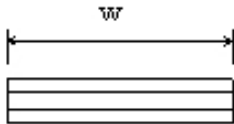
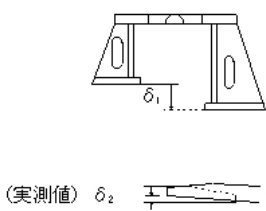


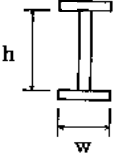
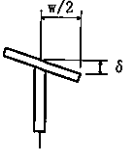
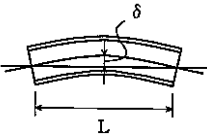
工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
		上限	下限
プレキャスト カルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 ▽	±30	
	※幅 w	－50	
	※高 さ h	－30	
	延 長 L	－200	

工 種	測定項目		規格値
検査路製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長 w (m)	0 ～ +30
	仮 組 立 時	組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1(\text{mm})$	設 計 値 ±4
		フィンガーの食違い $\delta_2(\text{mm})$	±2
落橋防止装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$

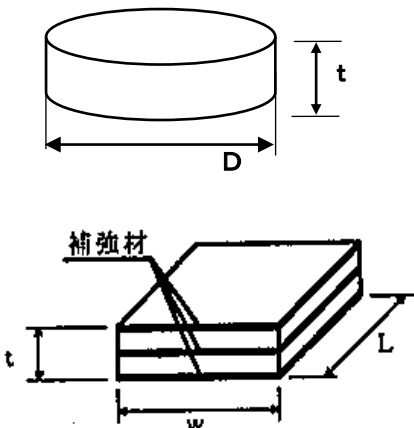
測定基準	測定箇所	摘 要
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打のある場合。		
1 施工箇所毎		

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		

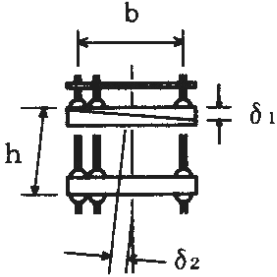
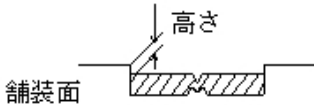
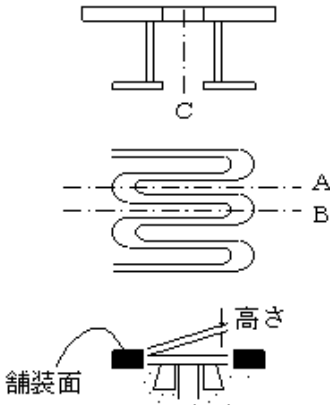
工 種	測定項目		規格値
銅製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
プレート用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$
		フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
		部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
	仮 組 立 時	主げたのそり	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$
橋梁用防護柵製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼げた	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主げたについて10～12m間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

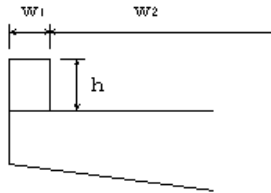
工 種	測定項目		規格値
鑄造品 (金属支承工)	上・下部鋼構造物との 接合用ボルト孔 中心距離	孔の直径差	+2 -0
		センターボスを基準にした孔位置のずれ	≤1000mm
			≤1
			センターボスを基準にした孔位置のずれ
	アンカーボルト用孔 (鑄放し)	孔の直径	≤100mm
			+3 -1
		>100mm	+4 -2
	センターボス	孔の中心間距離	
		JIS B 0403-95 CT13	
	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	
		±2	
	全移動量 ℓ	$\ell \leq 300\text{mm}$	
		$\ell > 300\text{mm}$	
	組立高さ(H)	上、下面加工仕上げ	
		コンクリート構造用	±3
			±3
鑄造品 (大型ゴム支承工)	普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1, ※2	
		JIS B 0403-95 CT14	
		鑄放し肉厚寸法 ※1	
		JIS B 0403-95 CT15	
	幅W 長さL 直径D	削り加工寸法	
		JIS B 0405-91 粗級	
	厚さt	ガス切断寸法	
		JIS B 0417-79 B級	
		w,L,D ≤ 500	
	平面度	0~+5	
		500<w,L,D ≤ 1500mm	
	厚さt	0~+1%	
		1500<w,L,D	
		0~+15	
	厚さt	t ≤ 20 mm	
		±0.5	
		20<t ≤ 160	
	厚さt	±2.5%	
		160<t	
		±4	
	平面度	w,L,D ≤ 1000mm	
		1	
	平面度	1000mm< w,L,D	
		(w,L,D) /1000	

測定基準	測定箇所	摘 要
製品全数を測定。 ※1 片面削り加工も含む ※2 ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		
製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差		

工 種	測定項目		規格値
アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$
		鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$
		高 さ h (mm)	± 5
仮設材製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
床版・横組工	基 準 高 ∇		± 20
	幅 w		$0 \sim +30$
	厚 さ t		$-10 \sim +20$
	鉄筋のかぶり		設計値以上
	鉄筋の有効高さ		± 10
	鉄筋間隔		± 20
	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合		$+10$
伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$
	仕上げ高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$
伸縮装置工 (鋼製 フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	± 3
		車線方向各点 誤差の相対差	3
	歯型板面の歯咬み合い部の高低差		2
	縦方向間隔		± 2
	横方向間隔		± 5
	仕上げ高さ		舗装面に対し $0 \sim -2$

測定基準	測定箇所	摘 要
軸芯上全数測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		
基準高は1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10m²に1箇所測定。(床版の厚さは、型枠検査をもって代える) 1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎に1箇所とする。 1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。1箇所の測定は橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定する。		
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向は両端、中央部の計3点。		

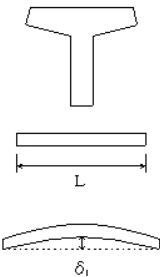
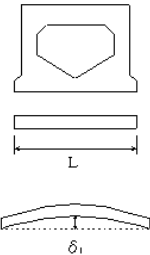
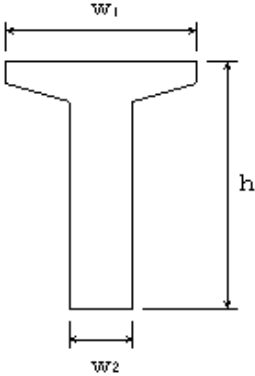
工 種	測定項目	規格値	
地覆工	地 覆 の 幅 w_1	－10～＋20	
	地 覆 の 高 さ h	－10～＋20	
	有 効 幅 員 w_2	0～＋30	
橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 W	－ 5 ～＋10	
	高さ h	－20～＋30	
検査路工	幅	± 3	
	高さ	± 4	
支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	± 5	
	可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 ＋10 以上	
	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋	鋼橋
		± 5	4+0.5(B-2)
	下沓の水平度	橋軸方向	1/100
		橋軸直角方向	
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5	
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2 以上		

測定基準	測定箇所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 ブロックを抽出して測定。		
支承全数を測定。 B : 支承中心間隔(m) 支承の平面寸法が 300 mm以下の場合 は、水平面の高低差を 1 mm以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付け る場合を除く。 注 1)先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2)可動支承の遊間 (La,Lb) を計測 し、支承据付け時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路 橋支承便覧の規格値を満たすこ とを確認する。 注 3)可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		

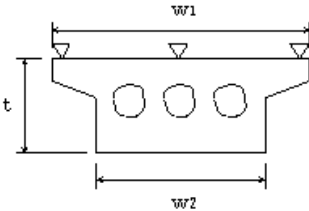
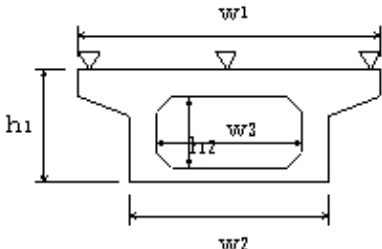
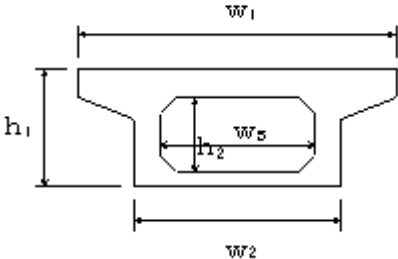
工 種	測定項目		規格値	
支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)		± 5	
	可動支承の移動可能量 注2)		設計移動量 +10 以上	
	支承中心間隔 (橋軸直角方向)		コンクリート橋	鋼橋
			± 5 mm	4+0.5(B-2)
	水平度	橋軸方向	1 /300	
		橋軸直角方向		
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差		5	
可動支承の移動量 注3)		温度変化に伴う 移動量計算値の1/2 以上		
架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	全長・支間長 L (m)		± (20+L/5)	
	通 り δ (mm)		± (10+2L/5)	
	そ り δ (mm)		± (25+L/2)	
	※主げた、主溝の中心間距離 B (m)		± 4………B≤2 ± (3 + B/2) …… B>2	
	※主げたの橋端における出入差 δ (mm)		設計値 ±10	
	※主げた、主溝の鉛直度 δ (mm)		3 +h/1,000	
	※現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)		設計値 ±5	

測定基準	測定箇所	摘 要
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300 mm以下の場合、水平面の高低差を 1 mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注 1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2)可動支承の遊間 (La,Lb) を計測し、支承据付け時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注 3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
各桁毎に全数測定。 L : 主げた・主軸の支間長 (m)		
L : 主げた・主軸の支間長 (m)		
主げた、主溝を全数測定。 L : 主げた・主軸の支間長 (m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主げた (主溝) 端を測定。		
各主げたの両端部を測定。 h : 主げた・主溝の高さ (mm)		
主げた、主溝の全継手数の 1 / 2 を測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合にはマイナスを認めない。 ※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		※規格値のL,Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主溝の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

工 種	測定項目	規格値
プレテンション桁製作工（購入工） （けた橋）	桁 長 L (m)	$\pm L/1000$
	断面の外形寸法	± 5
	橋桁のそり δ_1	± 8
	横方向の曲がり δ_2	± 10
プレテンション桁製作工（購入工） （スラブ桁）	桁 長 L (m)	$\pm 10 \cdots L \leq 10\text{m}$ $\pm L/1000 \cdots L > 10\text{m}$
	断面の外形寸法	± 5
	橋桁のそり δ_1	± 8
	横方向の曲がり δ_2	± 10
ポストテンション桁製作工	幅（上） w_1	$+10$ -5
	幅（下） w_2	± 5
	高 さ h	$+10$ -5
	桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
	横方向最大タワミ	0.8ℓ
プレキャストセグメント製作工（購入工）	桁 長 ℓ	—
	断面の外形寸法 (mm)	—
プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
	横方向最大タワミ	0.8ℓ

測定基準	測定箇所	摘 要
桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表に代えることができる。 JIS 製品以外は、JIS 製品に準じる。		
桁全数について測定。橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表に代えることができる。 JIS 製品以外は、JIS 製品に準じる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定はプレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : 支間長 (m)		
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : 支間長 (m)		

工 種	測定項目	規格値
PCホロースラブ製作工	基 準 高	±20
	幅 w_1, w_2	- 5 ~ +30
	厚 さ t	-10 ~ +20
	桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm以内
P C箱桁製作工	基 準 高	±20
	幅(上) w_1	- 5 ~ +30
	幅(下) w_2	- 5 ~ +30
	内 空 幅 w_3	± 5
	高 さ h_1	+10 - 5
	内空高さ h_2	+10 - 5
	桁長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm以内
PC押出し箱桁製作工	幅(上) w_1	- 5 ~ +30
	幅(下) w_2	- 5 ~ +30
	内 空 幅 w_3	± 5
	高 さ h_1	+10 - 5
	内 空 高 さ h_2	+10 - 5
	桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm以内
架設工 (コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)	全長・支間	—
	桁の中心間距離	—
	そ り	—

測定基準	測定箇所	摘 要
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で 1 箇所当り両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは、1 径間当り両端と中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で 1 箇所当り両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは、1 径間当り両端と中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は両端部、中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については床版・横組工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
各桁毎に全数測定。		
一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
主桁を全数測定。		

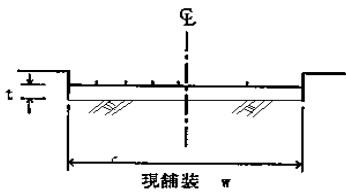
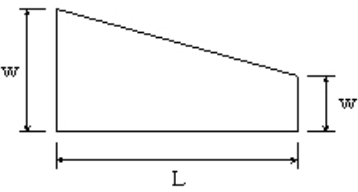
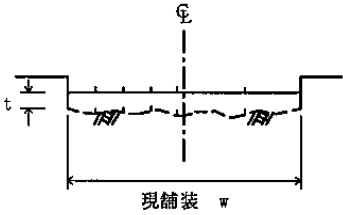
工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)
半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	—45	—15
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	— 9	— 3
	幅	—25	—
半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	— 7	— 2
	幅	—25	—
	平 坦 性	—	3 m ² プロフィルター (σ) 2.4 mm以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm以下
半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	—15	— 5
	幅	—50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	基準高については、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合は補充材の施工完了後、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合は路床面にて測定する。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。 基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時の路床面の基準高測定ができない場合及び、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合に適用する）。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		

工 種	測定項目	規格値	編
ポーラスアスファルト舗装工 (下層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	—45	—15
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	—9	— 3
	幅	—25	—
ポーラスアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	—7	— 2
	幅	—25	—
	平 坦 性	—	3 m ² プロファイル (σ) 2.4 mm以 下直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm 以下
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	—25	— 8
	幅	—50	—
ポーラスアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	—15	— 5
	幅	—50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 基準高については、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合は補充材の施工完了後、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合は路床面にて測定する。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。 基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時等の路床面の基準高測定ができない場合及び、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合に適用する）。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。		

工 種	測定項目		規格値	編
グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ		—15	— 5
	幅		—50	—
グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ		— 9	— 3
	幅		—25	—
グースアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ		— 7	— 2
	幅		—25	—
	平 坦 性		—	3 m ² プロフィール (σ) 2.4 mm以 下直読式 (足付き) (σ) 1.75 mm 以下
路面切削工	厚 さ t		—7	—2
	幅 w		—25	—
舗装打換え工	路 盤 工	基 準 高 ∇	±40	
		厚 さ t	該当工種	
		幅 w	-50	
		延 長 L	-100	
	舗 設 工	厚 さ t	該当工種	
		幅 w	-25	
		延 長 L	-100	
オーバーレイ工	厚 さ t		—9	
	幅 w		—25	
	延 長 L		—100	
	平 坦 性		—	3 m ² プロフィール (σ) 2.4 mm以下直 読式(足付き) (σ) 1.75 mm 以下

測定基準	測定箇所	摘 要
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、 厚さは、各車線20mに測定し、1000 m ² に1個の割でコアーを採取して測 定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、 厚さは、各車線20m毎に測定し、1000 m ² に1個の割でコアーを採取して測 定。	維持工事、及び施工延長 100m 未満又 は人力敷均しにより舗設した箇所にお いては、平坦性の項目を省略するこ とが出来る。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、 厚さは、各車線20m毎に測定し、1000 m ² に1個の割でコアーを採取して測 定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。		
厚さは40m毎に現舗装高さと切削後 の基準高の差で算出する。測定点は 車道中心線、車道端及びその中心と する。 延長40m未満の場合は、2箇所／施 工箇所とする。断面状況で、間隔、 測点数、厚さを変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によるこ とが出来る。		
各層毎1箇所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現舗装高さとオーバ レイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びそ の中心とする。 幅は延長80m毎に1箇所の割とし、 延長80m未満の場合は、2箇所／施 工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを 変えることが出来る。		

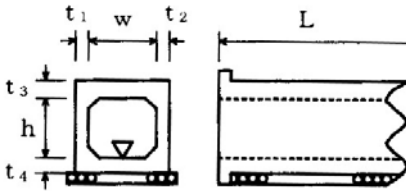
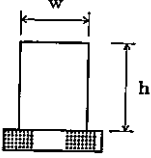
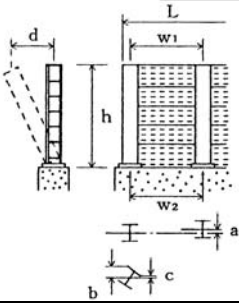
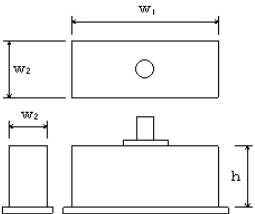
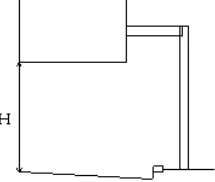
出来形管理基準及び規格値

単位mm

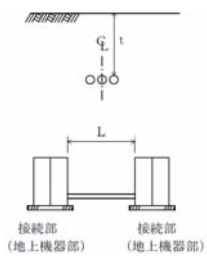
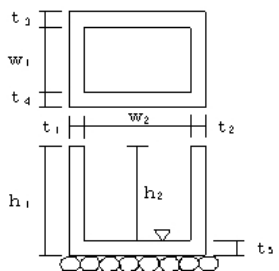
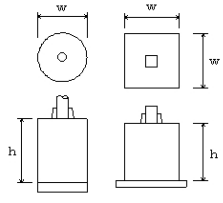
工 種	測定項目	規格値
落橋防止装置工 (アンカー工)	有効定着長 $\varnothing$	(引張部材) D22 以下 10D 以上 D25 以上 ～D32 以下 12D 以上 D35 以上 15D 以上 (せん断部材及び段差防止装置) D25 以下 8 D 以上 D29 以上 200mm 以上

測定基準	測定箇所	摘 要
全数を測定		

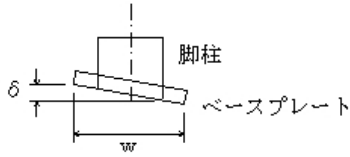
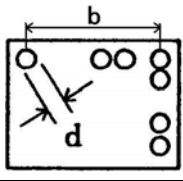
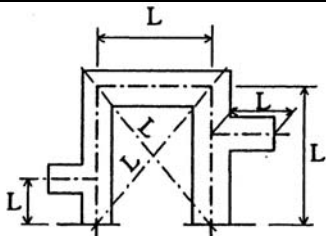
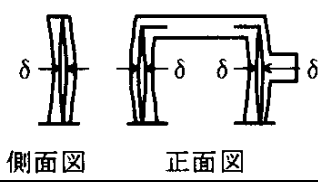
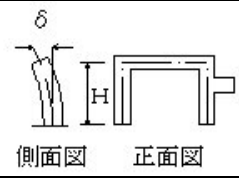
工 種	測定項目		規格値
遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
場所打函渠工	基 準 高 ∇		± 30
	厚 さ $t_1 \sim t_4$		-20
	幅(内法) w		-30
	高 さ h		± 30
	延 長 L	$L < 20\text{m}$	-50
		$L \geq 20\text{m}$	-100
遮音壁基礎工	幅 w		-30
	高 さ h		-30
	延 長 L		-200
遮音壁本体工	支 柱	間 隔 w	± 15
		ず れ a	10
		ねじれ $b-c$	5
		倒 れ d	$h \times 0.5\%$
	高 さ h		$+30$ 、 -20
	延 長 L		-200
踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高		± 20
	各部の厚さ		± 20
	各部の長さ		± 30
(ラバーシュー)	各部の長さ		± 20
	厚 さ		$\pm$
(アンカーボルト)	中心のずれ		± 20
	アンカー長		設計値以上
大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2		-30
	高 さ h		-30
大型標識工 (標識柱工)	設 置 高 さ H		設計値以上

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所 所で測定。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所		
1 施工箇所毎		
1箇所／1踏掛版		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1 箇所／ 1 基		

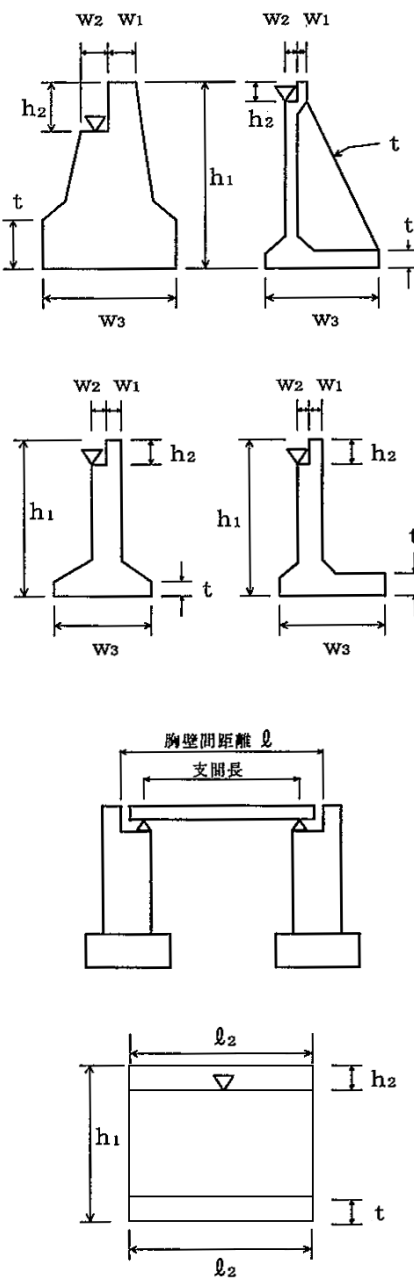
工 種	測定項目	規格値
ケーブル配管工	深 さ t	0~+50
	延 長 L	-200
ケーブル配管工 (ハンドホール工)	基準高▽	±30
	※厚 さ t ₁ ~ t ₂₄	-20
	※幅 w ₁ , w ₂	-30
	※高 さ h ₁ , h ₂	-30
照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	設計値以上
	高 さ h	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘 要
接続部間毎に 1 箇所		
接続部間毎で全数。		
1 箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
1 箇所毎/ 1 施工箇所		

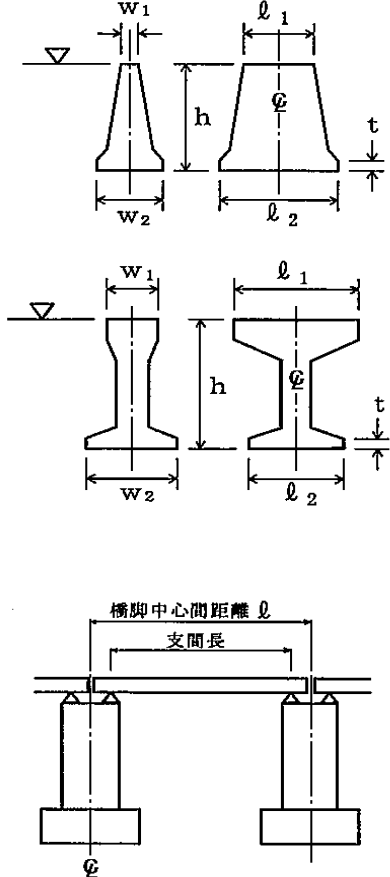
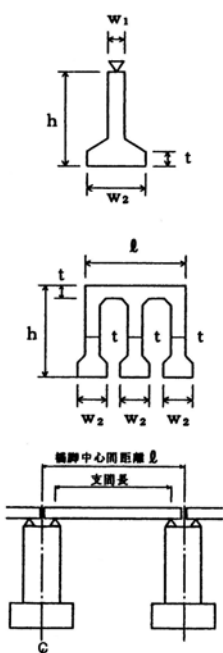
工 種	測定項目		規格値	
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
			上限	下限
鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)		W／500
		材	ベースプレート	
	材		孔の位置 b	±2
	材	孔の径 d	0～5	
	仮組立時	柱の中心間隔、対角長 L (m)		±5…L ≤10m ±10…10< L ≤20m ±(10+(L -20)／10) …20m< L
		はりのキャンバー及び柱の曲がり δ (mm)		L／1,000
		柱の鉛直度 δ (mm)		10…H ≤10 H／1,000…H >10

測定基準	測定箇所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。		
各柱及び片持ばり部を測定。 H : 高さ (m)		

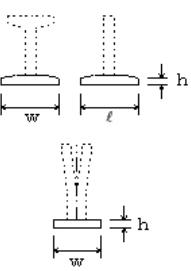
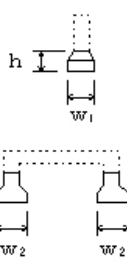
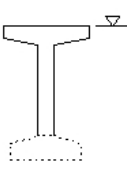
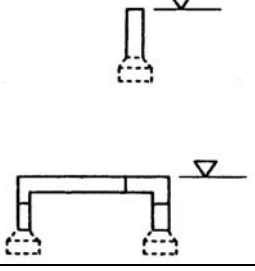
工 種	測定項目		規格値
橋台躯体工	基準高 ∇		± 20
	厚 さ t		-20
	天 端 幅 w_1 (橋軸方向)		-10
	天 端 幅 w_2 (橋軸方向)		-10
	敷 幅 w_3 (橋軸方向)		-50
	高 さ h_1		-50
	胸壁の高さ h_2		-30
	天 端 幅 ℓ_1		-50
	敷 長 ℓ_2		-50
	胸壁間距離 ℓ		± 30
	支間長及び中心線変位		± 50
	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高	$-20 \sim +10$
		平面位置	± 20
		アンカーボルトの鉛直度	1/50以下

測定基準	測定箇所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

工 種	測定項目		規格値
橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高 ∇		± 20
	厚 さ t		-20
	天 端 幅 w_1 (橋軸方向)		-20
	敷 幅 w_2 (橋軸方向)		-50
	高 さ h		-50
	天 端 長 ℓ_1		-50
	敷 長 ℓ_2		-50
	橋脚中心間距離 ℓ		± 30
	支間長及び中心線変位		± 50
	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	$-20 \sim +10$
		平面位置	± 20
		アンカーボルトの鉛直度	1/50 以下
橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇		± 20
	厚 さ t		-20
	天 端 幅 w_1		-20
	敷 幅 w_2		-20
	高 さ h		-50
	長 さ ℓ		-20
	橋脚中心間距離 ℓ		± 30
	支間長及び中心線の変位		± 50
	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	$-20 \sim +10$
		平面位置	± 20
		アンカーボルトの鉛直度	1/50 以下

測定基準	測定箇所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

工 種	測定項目	規格値
橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
	幅 w (橋軸方向)	-50
	高 さ h	-50
	長 さ ℓ	-50
橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
	幅 w_1, w_2	-50
	高 さ h	-50
橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
	橋脚中心間距離 ℓ	± 30
	支間長及び中心線の変位	± 50
橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
	橋脚中心間距離 ℓ	± 30
	支間長及び中心線の変位	± 50
現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5

測定基準	測定箇所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の 1 / 2 を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		

工 種	測定項目		規格値
橋梁用高欄製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$

出来形管理基準及び規格値

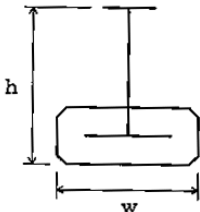
単位mm

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		

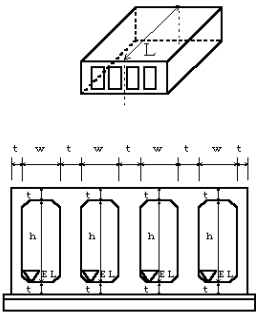
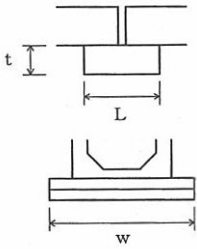
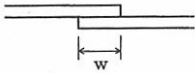
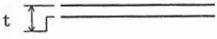
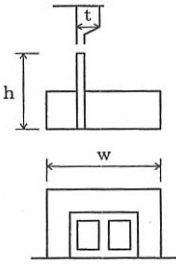
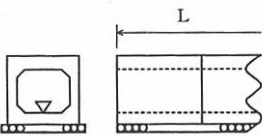
出来形管理基準及び規格値

単位mm

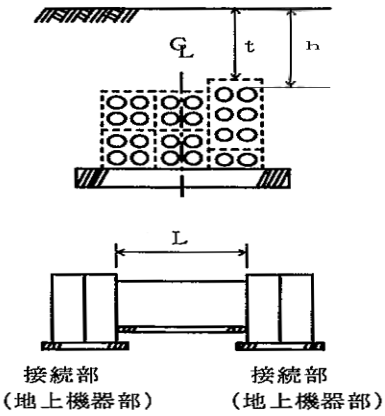
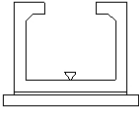
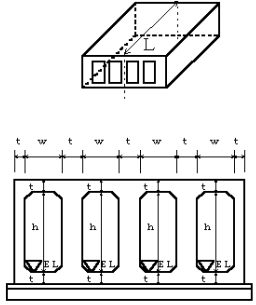
工 種	測定項目	規格値
プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
	高さ h	$+10$ -5
	桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
	横方向最大タワミ	0.8ℓ

測定基準	測定箇所	摘 要
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : スパン長		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について10～20m間隔を測定。		

工 種	測定項目	規格値
現場打躯体工	基 準 高 ∇	± 30
	厚 さ t	-20
	内 空 幅 w	-30
	内 空 高 h	± 30
	ブロック長 L	-50
カラー継手工	厚 さ t	-20
	幅 w	-20
	長 さ L	-20
防水工（防水）	幅 w	設計値以上
防水工（防水保護工）	厚 さ t	設計値以上
防水工（防水壁）	高 さ h	-20
	幅 w	± 50
	厚 さ t	-20
プレキャスト躯体工	標 準 高 ∇	± 30
	延 長 L	-200

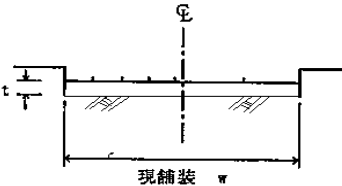
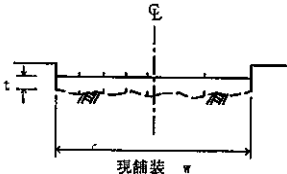
測定基準	測定箇所	摘 要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。		
両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。		
延長：1 施工箇所毎		

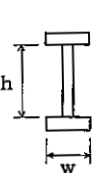
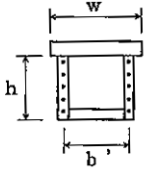
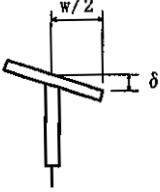
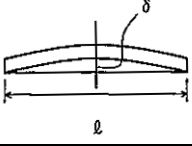
工 種	測定項目	規格値
管路工	埋 設 深 h	0 ～+50
	延 長 L	－200
プレキャストボックス工	基 準 高 ▽	±30
現場打ボックス工	基 準 高 ▽	±30
	厚 さ t	－20
	内 空 幅 w	－30
	内 空 高 h	±30
	ブロック長 L	－50

測定基準	測定箇所	摘 要
柵間毎に全数。		
接続部(地上機器部)毎に 1 箇所。		
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
切削オーバーレイ (路面切削)	厚 さ t	－7	－2
	幅 w	－25	－
オーバーレイ工	厚 さ t	－9	
	幅 w	－25	
	延 長 L	－100	
	平 坦 性	－	3 m ² プロファイル ター(σ) 2.4 mm以下直 読式(足付き) (σ)1.75 mm以 下

工 種	測定項目	規格値
桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$
	フランジの直角度 δ (mm)	w/200
	圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ/1000
床版補強工 (炭素繊維シート接着)	重ね継手長	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘 要
厚さは20m毎に現舗装高さと切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測量方法は自動横断測定法によることが出来る。		
厚さは20m毎に現舗装高さとオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は延長40m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。	 維持工事、及び施工延長100m未満又は 人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

測定基準		測定箇所	摘 要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼げた	 トラス弦材	
床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。			
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。			
主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長(mm)			
全数			